

第3回東京大学果樹園跡地活用等検討委員会 会議要旨

開催日時	平成25年1月29日（火）14時55分～16時15分	
開催場所	町民センター2階2Aクラブ室	
出席者	委員	出席13名 村山邦夫委員、中村伸吾委員、宮治正志委員、川島孝之委員、宮戸健次委員、安部健治委員、簗島喜好委員、平吹幸子委員、明石敬史委員、石坂一夫委員、神保智子委員、高見利和委員、武井健一委員
	その他	傍聴 2名
	町職員	町長、政策部長
	事務局	政策部企画財政課3名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 土地利用の方向性について (2) その他 4. 閉会 	
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> ① 次第 ② 資料1 『前回検討委員会から現在までの調査、検討事項報告』 ③ 資料2 『二宮町将来スケジュール』 ④ 資料3 『東京大学果樹園跡地土壌汚染対策工事の経過等について』 	

■会議概要

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 土地利用の方向性について

【質疑・意見など】(※◎は会長、○は委員、●は事務局の発言)

◎東大側から土壤汚染対策工事や隣接地の売却の情報提供について、ご意見等があればお願いします。

○今回売却する土地は市街化区域になるのか。

●市街化調整区域になる。土地の半分は宅地要件があるということなので建築が可能となる。

○どのようなものを建てることができるのか。

●通常の住宅などを建てることができる。1軒だけとは考えにくいので、4件くらい建てるのが可能ではないかと思う。

○変なものが建ってしまうのはどうかと思う。

●建物の高さは10mまでとなるが、用途については、福祉施設などある程度の建物は建築可能である。

○今後、道路を付け替える場合に影響が出るのではないか。技術的にできそうなのか。

●まだ土地利用が決まっていないので、なんとも言えない。購入した土地の中で付け替えができればと思う。

◎町として相談していく。付け替えはこれからの検討になると思う。

◎それでは、土地利用の方向性についてですが、ご意見等があればお願いします。

○来年度は維持管理をしていくということだが、草刈りだけでなく建物の補修なども進めた方がよい。また、皆さんの意識を高めるためにも、いろいろな団体などを呼んだ方がよい。1年間のプログラムを組んでイベントや映画などに使うと良いのではないか。前回の会議で学校のカリキュラムに入れることは難しいという話があったが、カリキュラムが難しいのなら夏休みを使うなど、たくさんの方に現地に入ってもらい、わくわくするような体験をしてもらいたい。実際に皆さんに参加してもらい、学んでいただきながら、平成26年に意見を反映できる仕組みをつくれば良いと思う。

○現地をみて、草刈りはボランティアだけでは手に負えないと思う。メインとなる場所は、企業へ貸し出すこともアイデアとして良いと思う。

○初めて門の中に入った。楽しさの発見がないと誰も来てくれないのではないか。トンネルがあるとか、水が湧いているとか、温泉がでるとか、裸足で歩けるとか可能性が

たくさんある二宮の宝島みたいに感じた。楽しさを先に発信してあげれば、来てくれるのではないか。

- 現地に入ったことのない人が多いので、わくわく感を発信して、皆さんでどうしていくかを考えてもらえば良いと思う。現地を再生するために、参加費をとったツアーもできると思う。現地を歩きながらの方が、良いアイデアも出る。前回ふるさとまつりという意見もあったが、職業体験などできないのか。
- 可能性はあると思う。一方では建物の耐震診断をやらなくてはいけない。現状を知ることでもある。可能性と制約を踏まえないといけないので、そこにお金をかけても良いのではないか。
- ◎人が使うには、その辺りを調べておかないといけない。草は整理しないと人が入れない。また野球をやりたいといっているグループもあるようだ。まずは条件を整理していきたい。
- 使えるところから使っていってはどうか。
- ◎柿はまだできるのか。もしできるのならそこを任せてはどうか。
- 町に樹木医が3人いる。草刈りしながらやれたら良いと思う。いろいろな方の意見をまとめていく。どれだけ楽しい場所かを発信し、宝の山ということをPRしていくことはできないか。
- まずは、何か始めないといけない。
- ◎皆さんの意見を聞いていると本日の資料の④の活用が中心ということかと思うが。今の時代は受け身ではなかなか進まない。
- 活動している人のネットワークやノウハウを活かせばできると思う。単に人を集めようとしても来ないので、来年の核となるイベントを決めて、そのカリキュラムを発信することにより、いろんな人を引き込んで、草刈り以外の人にも関わってもらうことが大切だと思う。
- ◎人の話も受け身ではなかなか進んでいかない。
- 情報を発信することで手を上げる人が出てくる。
- 何かをする場合、近隣の方の理解が必要となってくる。企画するにも地域の方を多く取り込んで一緒にやることで、土地の魅力だけでなく、人の魅力も感じてもらうことができるのではないか。
- ◎ここでの議論は地域に持ち帰ってもらう。地元の方が反対だったら難しい。駐車場がないと人が来ないという意見もあるが、奥の突き当たりは何台か確保できると思う。
- まずは平成25年度をどうするかを考えなくてはいけない。ホームレスが入っては困るという話もあったが、暫定利用が始まったら町の管理になる。最初の一步をどうできるのか。ボランティアなどもあるが、フェンス沿いに花を植えるなど、あの敷地を守るために手を打たないといけない。また、東大跡地の活用の窓口をどこにするのか、きちんとしておかなくてはいけない。あくまで暫定利用という中での枠組みを町民に

知らせると同時にフェンスで花をやっていくのが 25 年度かと思う。その中で検討を進め、意見をいただきボランティアへ呼びかけて中に入れていく。

- ◎一方では企業から打診も来ているようだ。企業はスピードが必要。インフラの整備も必要になってくる。これまでの意見をまとめると、一つはボランティアを公募する。同時に当たれるところは当たって参加者を増やす。予算は電気、水道を確保する。町側としても最低限の準備をする。
- 町は経費削減というが、ボランティアと業者を比較しどちらが安くできるのか算定する必要がある。
- ホームレスの話があったが、子ども達がフェンス沿いを帰ってくると、一人で歩かせるのは不安。不審者は春になると出てくるし、夏は草が伸びると死角ができる。早急に手を打っていただきたい。
- 入口の前の道路に花が植えてある。それをフェンス沿いにも植えてもらうことはできないのか。
- 道路を整備してもらいたい。それができないなら、路上駐車が出ないようにしてもらいたい。
- ◎ボランティアの募集方法は、具体的なものを次回示していきたい。何かあれば意見をいただきたい。
- 現地に人が入るとなると、通常の公園の維持管理と同様のレベルになると思う。ベンチも寝れないものにするとか、ごみ箱置かないようにするとか。建物も同時に利用し、コミュニティ施設として発信することで夢も膨らむのではないか。
- ◎A地区は同じような扱いで良いか。周辺の農業者の方から使いたいという話もあるようだ。
- 切り離して考えて良いのではないか。

(2) その他

次回は2月下旬から3月上旬の開催とし、日程は別途調整する。

4. 閉会

以上